



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 84

Feb. 2022

今号のトピックス

公開シンポジウムのお知らせがあります (14 ページ)

名誉会員候補の推薦をお願いします (15 ページ)

目 次

諸報告

2022 年度第 16 回日本植物分類学会論文賞の決定	2
2021 年度メール評議員会議事抄録	2
2021 年度日本植物分類学会講演会の報告	3
日本植物分類学会講演会に参加して	4

お知らせ

2022 年度総会のお知らせと審議事項	5
日本植物分類学会第 21 回神奈川大会実行委員会からのお知らせ	13
名誉会員候補の情報募集	15

会員消息	15
------	----

諸報告

2022 年度第 16 回日本植物分類学会論文賞の決定

論文賞選考委員会委員長 田村 実

2022 年度第 16 回日本植物分類学会論文賞は、2021 年に出版された英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』72 巻および和文誌『植物地理・分類研究』69 巻に掲載された論文のうち、編集委員および論文賞選考委員から推薦された論文 9 編を論文賞選考委員会において審査し、次の 2 論文に決定しました。

Sakaguchi, S., A. Abe, K. Nagasawa, D. Takahashi, H. Setoguchi, M. Maki, R. Kyan, T. Nishino, N. Ishikawa, S. K. Hirota, Y. Suyama & M. Ito. 2021. Functional traits divergence in parallelly evolved rheophytic populations of *Solidago virgaurea* L. complex (Asteraceae) in Japan. Acta Phytotax. Geobot. 72 (2): 93–111.

選考理由：日本列島で著しい形態的変異を示すアキノキリンソウ群の溪流適応型の実態を明らかにした論文である。西南日本において陸上型から溪流型が複数回収斂進化したことを示唆した上で、様々な産地の溪流型を同一条件で栽培しても、複数の形態形質および開花時期に差が見られることを明らかにした。特に沖縄県産のアオヤギバナは、他地域のものとは大きく異なっており、同じく沖縄県産のシマコガネグクとの間に遺伝的交流も認められないことから、新種（ヤンバルアオヤギバナ）として記載している。溪流沿い環境に適応した植物について、良くデザインされた共通圃場実験と形態計測やゲノム解析の統合的研究を組み合わせることによって、収斂進化した植物の実態を解明したユニークな研究であることが高く評価できる。

Watanabe, S. T., K. Hayashi, K. Arakawa, S. Fuse, H. Nagamasu, H. Ikeda, A. Kuyama, P. Suksathan, M. Poopath, R. Pooma, Y.-P. Yang & M. N. Tamura. 2021. Biosystematic studies on *Lilium* (Liliaceae) I. Phylogenetic analysis based on chloroplast and nuclear DNA sequences and a revised infrageneric classification. Acta Phytotax. Geobot. 72 (3): 179–204.

選考理由：これまでのユリ属の節認識は分子系統を反映しないことがわかってきたが、葉緑体と核の系統関係が異なることから節認識の改訂が進まなかった。しかし、本研究では誤同定回避のため、世界中から集めたサンプルを全て著者自らが同定し、同一サンプルを葉緑体と核の両解析に用いた結果、両系統樹に共通した 12 個のクレードの存在を見出すことに成功したところが本研究の最重要点であろう。加えて綿密な形態解析を行い、12 クレードを支持する形態形質を発見し、12 節を認め、分類学の論文としての結論を分類体系という形で提示している。なぜ、ユリ属の祖先種から 12 節の祖先種に至る歴史の中では網状進化して、その後、節間に生殖的隔離が形成されたのかなど、ユリ属を理解する上で本質的な問題点も整理されている。日本だけでなく世界を対象として 1 つの属全体の分類に取り組んだスケールの大きい論文であり、園芸学も含めて世間へのインパクトも大きく、価値が高いと考える。

2021 年度第 1 回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

昨年 12 月 20 日（月）～12 月 31 日（金）に 2021 年度第 1 回メール評議員会を開催しましたので、議事抄録を報告します。この会議は 2021 年度の事業報告案と決算案、2022 年度の事業計画案と予算案

を評議員に審議していただくために開催したものです。なお、2021年度決算は12月末日が会計年度の締め切りのため、本メール評議員会の議案中の決算額には概算部分がありましたが、本報告には確定版の決算を収録していることをご了承ください。

開催日時：2021年12月20日（月）～12月31日（金）

開催方法：電子メール媒体をもちいた会議

参加者：評議員全員

議長選出

慣例にしたがい村上哲明会長を議長とすることに反対はなかった。

審議事項

第1号議案 2021年度事業報告案

第2号議案 2021年度決算案

第3号議案 2022年度事業計画案

第4号議案 2022年度予算案

審議結果

第1号議案、第2号議案、第3号議案、第4号議案において、修正の後、承認多数で可決された。委任状はなかった。

第1号議案 【賛成9票、反対0票、白票4票】

第2号議案 【賛成9票、反対0票、白票4票】

第3号議案 【賛成9票、反対0票、白票4票】

第4号議案 【賛成9票、反対0票、白票4票】

議事録署名人として坪田博美評議員、布施静香評議員が選出された。

2021年度日本植物分類学会講演会の報告

2021年度講演会担当委員 高山 浩司

21回目の日本植物分類学会講演会が、2021年12月18日（土）に大阪学院大学ならびにZoomを用いたオンラインで開催されました。同講演会としては初めて、会場とオンラインのハイブリット方式による開催となりました。開催に関する情報は、学会メールニュース、ホームページ、ニュースレターおよびTAXA・EVOLVEのメーリングリストによって行われ、合計263名の事前申込がありました。当日は会場参加者が37名、Zoomの同時接続者が常に120名前後と、全国の多くの方々にご参加いただきました。開催当日も大阪学院大学の事務職員やIT技術者の方に全面的な協力を頂き、会場とオンラインで大きな隔たりもなく活発な議論が展開されました。

今回は6名の先生方に下記の順でご講演いただきました。

石川 直子（大阪市立大学）「オオバコのかたちの進化－奈良公園における矮化現象について－」

鈴木 雅大（神戸大学） 「日本産紅藻類の分類学的研究」

中濱 直之（兵庫県立大学）「絶滅危惧植物の過去・現在・未来－博物館標本と域外保全集団を用いた集団遺伝解析－」

酒井 章子（京都大学） 「花に見る♂の都合・♀の事情」

藤浪 理恵子（京都教育大学）「シダ植物小葉類の二又分枝と根と茎の進化」

村上 哲明（東京都立大学）「シダ植物の日本新産種や希少種の配偶体での相次ぐ発見」

ご多忙中にも関わらず、また開催方法が直前まで確定できないなかで、快くご講演を引き受けてくださった演者の皆様、長時間お付き合いくださった参加者の皆様、質問やコメントで講演会を盛り上げてくださった方々、会場の手配をしてくださった大阪学院大学の林一彦先生に厚く御礼申し上げます。

日本植物分類学会講演会に参加して

フェルナンド・アントニオ ベレス・エスペリヤ（京都大学大学院 理学研究科）

私にとっての初めての日本での学術講演会への参加でした。

石川先生のご講演は、奈良公園でのオオバコの矮化に関する話でした。日本語がまだよく分からない私にとっても理解しやすい発表で、オオバコの適応進化の様子を知ることができました。草食動物による生物多様性の減少は地球上のさまざまな場所で起こっていると思いますが、オオバコはこれに応答して、新しい形質を進化させていることに感動しました。矮化した個体と通常の個体を交配させ、その子孫の形質と遺伝子の相関を調べる QTL 解析も、遺伝子レベルでの変化を確かめるために有効であることが分かりました。スペインでは "Dehesa (デエサ)" と呼ばれるアグロフォレストリーもありますが、そういった環境でも植物で同様の進化が見られるのではないかと興味を持ちました。

鈴木先生のご講演は、日本産紅藻類の分類学的研究でした。日本の紅藻の多様性や研究の状況について知る良い機会となりました。系統解析の進展により、これまで同じ種や属と思われていたものが多系統群になり、新種だけでなく新属さえも毎年発見されていることに驚きました。分布が広い種に関しては、同じ種が汎世界分布しているのか、それとも形態的に類似している別の種が分布しているのかを突き止めていくことは、分類学者にとって重要な課題だと思いました。講演を聞いてから、日本の海岸を訪れてみたいと強く思いました。

分類学に関連するさまざまな分野の研究者と出会うことができた良い機会でした。これからも植物分類学の研究者とたくさん話ができるように、もっと日本語を話せるようになりたいと思っています。

古澤 知佳（愛知教育大学 生物学教室）

私にとって、今回の講演会が初めての植物分類学会の講演会でした。進化や分類、保全など様々なお話を聞かせていただく貴重な機会となり、とても勉強になりました。

中濱直之先生からは、絶滅危惧種である海浜性植物について、博物館標本、野生集団、生育域外保全集団による遺伝的な違いや、遺伝的多様性の時間的変遷についてお話しいただきました。標本の分子情報を利用することにより、過去の野生集団が持っていた遺伝情報にアプローチし、現在の野生集団や生育域外保全集団がどの程度遺伝的多様性を保持しているかを推定されており、とても興味深い内容でした。

酒井章子先生からは、性的対立の視点から見た植物の送粉様式や多様性についてお話しいただきました。また、時間的に雌雄を分ける両性花のオオバウマノズクサ亜属の送粉では、蜜の分泌と表面構造の変化によってハエを閉じ込め、時間的に雌雄を分けても 1 回の訪花で雌雄両方の役割を果たしていることをお話しくださり、とても興味深く、改めて植物と昆虫の進化と共生のおもしろさを感じました。

数多くの貴重なお話をしてくださった先生方、講演会を開催していただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

伊藤 雄氣（大阪市立大学大学院 理学研究科）

藤浪先生は化石植物との比較から、小葉類の根の進化を考える研究をご紹介されていました。小葉類は真葉植物とは異なり二又分枝を行うものの、中にはヒカゲノカズラのように不等分枝を行うものもあり、その茎と根の分裂組織の動態の類似から、根の進化過程が推測できるというものでした。私は自身の研究

で先生の論文を拝読しているのですが、直接お話を聞いたのは初めてで、大変良い機会となりました。植物の姿が今のようになっているのはなぜか、その器官の進化を考えるのは非常に面白いと思います。

村上先生はシダ類の生活環において普通胞子体と世代交代するはずの配偶体が、独立して無性的に増殖し続ける独立配偶体についてご紹介されていました。先生のグループでは独立配偶体が密集しマット状に生育する配偶体マットを見つけ、これまで日本では珍種であったか、分布していないとされていた種を多数発見されました。愛好家も多い日本でまだ知られていない種や分布が発見できるということは衝撃で、ロマンがある研究だと思いました。お話を聞いて、実は近くにも独立配偶体があるのではないかと思い、なんとか探してやろうと心躍りました。

本講演会はオンサイト・オンライン同時開催で、参加しやすかったです。先生方の興味深いお話を聴くことができ、大変充実した時間を過ごせました。ありがとうございました。

お知らせ

2022 年度総会のお知らせと審議事項

庶務幹事 西野 貴子

来たる3月5日(土)にオンラインにて開催される総会において、以下の議案が審議されます。会員各位のご参加をお願いします。

1. 2021 年度事業報告案 (5 ページ参照)
2. 2021 年度決算案 (9 ページ参照)
3. 2022 年度事業計画案 (7 ページ参照)
4. 2022 年度予算案 (11 ページ参照)

1. 2021 年度事業報告案

(1) 集会等の開催

・学術集会, 講演会, 研修会

年次学術集会(日本植物分類学会第20回大会:3月8日(月)~3月10日(水)オンライン)を開催した。新型コロナウイルス感染拡大を考慮して zoom ウェビナーにてのオンラインのみでの開催で、ポスター発表は行わなかった。

日中韓国際シンポジウム(The 9th East Asian Plant Diversity and Conservation, Virtual Symposium 2021)を共催した(詳しくは、下の(3)委員会活動の国際シンポジウム準備委員会の項を参照のこと)。

2021 年度講演会を開催した(12月18日(土):現地開催と zoom を用いたオンラインを同時併用)。

2021 年度野外研修会は、奈良県(森と水の源流館)木村全邦氏にお世話いただき、奈良県吉野郡吉野町と川上村にて11月20日(土)~21日(日)に開催した。

・総会, 評議員会

年次総会を3月9日(火)に zoom にて開催した。

評議員会を1回, zoom を用いたオンラインにより開催した(1月12日(火), ニュースレター No.80 で報告)。

メール評議員会を1回開催した(12月, ニュースレター No.84 で報告)。

(2) 出版物の刊行

・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第72巻1~3号(計3冊)を発行した。

和文誌『植物地理・分類研究 (The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』第 69 巻 1～2 号 (計 2 冊) を発行した。

・ニュースレター

『日本植物分類学会ニュースレター』80～83 号 (計 4 冊) を発行した。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し、目的に沿って活動を行った。

・絶滅危惧植物専門第一委員会 (藤井伸二委員長)

環境省第 5 次レッドリスト改訂に向け、絶滅確率のシミュレーション計算を進め、判定作業を終えた。

・絶滅危惧植物専門第二委員会 (細矢 剛委員長)

コケ類、藻類、菌類、地衣類のグループごとに、前年度決定した評価対象種についてレッドリストカテゴリを判定するためのチェックシートの作成を進めた。

・植物データベース専門委員会 (大西 亘委員長)

国内の植物分類学系学術誌の情報整理を進めた。植物学関連の web データベースの情報整理を進めた。

・学会賞選考委員会 (瀬戸口浩彰委員長)

第 21 回日本植物分類学会賞の受賞者 4 名 (学会賞 2 名, 若手奨励賞 2 名) を決定した。(ニュースレター No. 83 で報告)

・論文賞選考委員会 (田村 実委員長)

2022 年度第 16 回日本植物分類学会論文賞の選考を開始した。(選考結果は、ニュースレター No.84 で報告)

・ABS 問題対応委員会 (村上哲明委員長)

委員会全体としての活動は特に行わなかったが、委員長の村上が文科省からの予算を用いて本学会会員の ABS 対応への支援を実施した。それとは別に、昨年度から環境省が、日本が国内遺伝資源の提供国措置を導入すること (日本国内に生息する野生生物に対して、外国人がこれを研究などに利用する場合に、事前に日本国政府の許可を得ることを新たに要求すること) に関して複数回アンケート調査を実施していた。それらの調査結果も踏まえて、日本の国内措置である ABS 指針を今後どうするか検討する「ABS 指針フォローアップ検討会」を 2021 年 12 月に立ち上げた。村上は今回、この検討会の正式な委員の一人となったので、検討会で直接、意見を述べられる立場になった。少なくとも生物分類学・生態学の基礎科学分野にとっては、日本の提供国措置はこれまで通り必要ないことを強く主張していこうと考えているが、この件について、何かで意見があれば、村上にお伝え願いたい。なお、この検討会で配付された資料 (アンケート結果の整理された情報も含まれている) は、以下の環境省の HP で公開されている。ご覧いただきたい。(https://www.env.go.jp/nature/council/53abs-follow-up-committee/yoshi53.html)。

・国際シンポジウム準備委員会 (池田 博委員長)

韓国主催のシンポジウムは新型コロナにより延期されていたが、1 年遅れで webex を用いたオンラインにて 10 月 29 日 (金)～30 日 (土) に行われた。(ニュースレター No. 83 で報告)

・標本問題対応委員会 (田中伸幸委員長)

国内の博物館や植物園のワシントン条約特定科学施設への登録を推進するため届出要件の見直しについて、経済産業省の担当部局と協議を行った。ハーバリウム標本が牧草とみなされて廃棄されるケースについては、この問題の解決に向けてこれまでの事例の収集を行った。

・研究・普及推進委員会 (黒沢高秀委員長)

委員会全体としての活動は行えなかったが、各委員が命名法やタイプに関わる研究相談や問い合わせへの対応、被災標本レスキュー、学校標本の状況調査・収集・研究、地方の植物研究の支援や地域の研究者との連携などに取り組んだ。

(4) 表彰

- ・日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の授与を行った（ニュースレター No. 80 で受賞者を報告）。
- ・日本植物分類学会論文賞の授与を行った（ニュースレター No. 80 で報告）。
- ・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行った（ニュースレター No. 81 で報告）。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・国内学会連合等への参加・連携を行った：日本学術会議，自然史学会連合，日本分類学会連合。
- ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT)，および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) と連携した。

(6) その他

- ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行った。
- ・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究』の論文 PDF を J-STAGE で公開した。
- ・植物分類学関連情報（学術集会，研究動向，出版物，公募）を収集し，ニュースレター，メールニュース，ホームページ等で提供した。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行った。
- ・「琉球大学熱帯生物圏研究センターの共同利用・共同拠点認定に関する要望書」（継続）を提出した。
- ・「大阪市立大学付属植物園の共同利用・共同拠点認定に関する要望書」（新規）を提出した。
- ・国立科学博物館，および大阪市立自然史博物館にて開催の特別展「植物 地球を支える仲間たち」に協力した。

2. 2021 年度決算案 → 9～10 ページに掲載

3. 2022 年度事業計画案

(1) 集会等の開催

- ・学術集会，講演会，研修会
 - 年次学術集会（日本植物分類学会第 21 回大会：3 月 3 日～3 月 6 日 オンライン）を開催する。
 - 2022 年度講演会を開催する。
 - 2022 年度野外研修会を開催する。
- ・総会，評議員会
 - 評議員会を開催する（2 月 23 日オンライン）。
 - 年次総会を年次学術集会に合わせて開催する（3 月 5 日オンライン）。

(2) 出版物の刊行

- ・学会誌の発行
 - 英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 73 巻 1～3 号（計 3 冊）を発行する。
 - 和文誌『植物地理・分類研究 (The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』第 70 巻 1～2 号（計 2 冊）を発行する。
- ・ニュースレター
 - 『日本植物分類学会ニュースレター』84～87 号（計 4 冊）を発行する。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し，目的に沿って活動する。

- ・絶滅危惧植物専門第一委員会
 - 環境省第 5 次レッドリスト改訂の原稿作成を進める。

- ・絶滅危惧植物専門第二委員会

カテゴリー判定とレッドデータブックの原稿執筆を 2023 年まで行い、2024 年にレッドリストとレッドデータブックの公表予定である。

- ・植物データベース専門委員会

国内の植物分類学系学術誌の情報ならびに、植物学関連の web データベースの情報整理を進める。これまでに整理したそれらの情報の公開共有の準備を行う。

- ・学会賞選考委員会

- ・論文賞選考委員会

- ・大会発表賞選考委員会

- ・ABS 問題対応委員会

委員長の村上が文科省から予算をもらって実施してきた分類学・生態学分野の研究者への ABS 対応支援事業は、来年度以降も継続される見込みであるが、2022 年度からはその代表者は江口克之氏（東京都立大学理学部生命科学科・准教授、昆虫の系統分類学が専門）に交代する（村上は、この支援事業の分担者となる予定）。いずれにしても、植物分類学分野の ABS 対応支援は継続される見込みである。ただし、この支援事業については成果を文科省から強く求められているので、ABS 対応が日本国内で着実に進んでいることに見える成果として、例えば APG 誌の投稿規定に ABS の遵守を求める記述を加えるなどの協力を本学会にもお願いしたいと考えている。一方で、日本の提供国措置をどうするかを含めて、環境省が立ち上げた ABS 指針フォローアップ検討会で議論が進んで行くはずである。この検討会の正式な委員に就任している村上から、適宜状況をご報告させていただく予定である。

- ・国際シンポジウム準備委員会

2023 年の日本主催に向けて、現在、2023 年秋に関西での現地開催とオンライン併用での同時開催を予定している。

- ・標本問題対応委員会

2021 年度に引き続き、ワシントン条約特定科学施設への登録を推進するため、経済産業省と届出要件見直しについての協議を行う。また、ハーバリウム標本が牧草とみなされて廃棄される問題について、前年度までに収集した事例に基づき、農林水産省植物防疫課と協議を行う。

- ・研究・普及推進委員会

2021 年度に引き続き、幹事会や他の委員会等と連携しながら、植物分類学の研究の推進、一般への普及、地域植物研究会の問題・課題や連携に取り組んでゆく。各委員が行っている活動を整理し、委員会全体としての活動を系統立ったものにする。

(4) 表彰

- ・日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の授与を行う。
- ・日本植物分類学会論文賞の授与を行う。
- ・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・国内学会連合等への参加・連携を行う：日本学術会議、自然史学会連合、日本分類学会連合など。
- ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) 等と連携、協力を行う。

(6) その他

- ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
- ・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究』の論文 PDF を J-STAGE で公開する。

- ・植物分類学関連情報（学術集会, 研究動向, 出版物, 公募）を収集し, ニュースレター, ホームページ, メールニュース等で提供する。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。

4. 2022 年度予算案 → 11～12 ページに掲載

2021 年度 一般会計 決算 (案) (単位: 円) (2021.12.31 現在)

収入の部	単価	数	予算	決算	予算との差異	
会費						
通常 (一般)	7,000	739	5,173,000	5,479,260	306,260	
通常 (学生/海外)	3,000	124	372,000	247,000	△ 125,000	注 1
団体会員	8,000	21	168,000	120,000	△ 48,000	注 1
自動振替手数料	132	143	18,876	19,140	264	注 2
APG カラーチャージ			324,000	828,000	504,000	注 3
バックナンバー販売			120,000	92,750	△ 27,250	
著作権使用料			100,000	0	△ 100,000	注 4
利息			50	49	△ 1	
雑収入			0	0	0	
合計			6,275,926	6,786,199	510,273	

支出の部	単価	数	予算	決算	予算との差異	
大会補助費			100,000	58,624	△ 41,376	注 5
講演会補助費			70,000	38,391	△ 31,609	
出版物印刷費						
APG vol.72 (1,2,3)	930,000	3	2,790,000	3,506,804	716,804	注 6
植物地理・分類研究 vol.69 (1,2)	700,000	2	1,400,000	1,754,907	354,907	注 7
ニュースレター No.80-83	55,000	4	220,000	178,200	△ 41,800	
学会誌編集補助費			250,000	273,038	23,038	
英文校閲費			50,000	50,000	0	
出版物送料						
APG 送料	110,000	3	330,000	366,029	36,029	
和文誌送料	110,000	2	220,000	220,610	610	
NL 送料	90,000	2	180,000	173,373	△ 6,627	
会議費			0	0	0	
学会賞表彰経費			47,000	45,720	△ 1,280	
自然史学会連合分担金			20,000	20,000	0	
分類学会連合分担金			10,000	10,000	0	
事務局管理費						
消耗品費			20,000	8,980	△ 11,020	
交通費			50,000	0	△ 50,000	
封筒等印刷費			0	0	0	
通信費 (小包手数料を含む)			50,000	70,474	20,474	
手数料・その他			15,000	10,247	△ 4,753	
集金代行基本料金/資金振込手数料			4,070	4,070	0	
集金代行振替手数料	132	148	18,876	19,140	264	
レンタルサーバー使用料			26,400	28,050	1,650	
国際シンポジウム積立金			200,000	200,000	0	
予備費			100,000	0	△ 100,000	
合計			6,171,346	7,036,657	865,311	

単年度収支	104,580	△ 250,458	△ 355,038
前年度からの繰越金	6,295,311	6,295,311	0
次年度への繰越金	6,399,891	6,044,853	△ 355,038

注 1:NL83 号の発送遅れのため会員への周知が遅くなったり、納入への働きかけが不十分だったため。

注 2:会員数の変動と残高不足による未収分 1 件があったため。

注 3:カラー図版が多かったため。一部未回収。

注 4:著作権協会より振込が遅れるとの通知あり。

注 5:オンライン開催だったため。

注 6:カラー図版が多かったため。

注 7:69(1)を追悼号としたため。

2021年度 特別会計〔絶滅危惧種調査〕 決算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	2,045,976	2,045,976	0	
レッドリスト改訂のための解析委託費(2021年分)	3,600,000	1,800,000	△1,800,000	注1
合計	5,645,976	3,845,976	△1,800,000	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
レッドリスト改訂のための事務委託費・解析費(2021年分)	2,045,976	3,800,000	1,754,024	注2
レッドリスト改訂のための事務委託費・解析費(2022年分)	2,000,000	0	△2,000,000	
次年度への繰越金(2022年分)	1,600,000	45,976	△1,554,024	注3
合計	5,645,976	3,845,976	△1,800,000	

注1:2021年度(環境省の会計年度;2021年4月1日~2022年3月31日)委託費。環境省からの委託費が減額されたため。

注2:環境省の会計年度内(2021年3月31日まで)に支出した、レッドリスト改訂のための事務委託費・解析費。

注3:環境省の会計年度内(2022年3月31日まで)に支出予定。

2021年度 特別会計〔国際シンポジウム〕 決算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	600,000	600,000	0	
国際シンポジウム積立金	200,000	200,000	0	注1
合計	800,000	800,000	0	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
国際シンポジウム準備金	0	0	0	注2
国際シンポジウム若手派遣	100,000	0	△100,000	注3
次年度への繰越金	700,000	800,000	100,000	
合計	800,000	800,000	0	

注1:2023年の開催に備えての積立金。一般会計より移換。

注2:日本でのシンポジウムの開催がないため。

注3:韓国でのシンポジウムがオンライン開催だったため。

2021年度 特別会計〔命名規約〕 決算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	617,609	617,609	0	
合計	617,609	617,609	0	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
次年度への繰越金	617,609	617,609	0	注1
合計	617,609	617,609	0	

注1:該当する支出がなかったため。

2021年度 特別会計〔顕彰事業〕 決算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	385,924	385,924	0	
一般会計より移換	0	0	0	
合計	385,924	385,924	0	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
次年度への繰越金	385,924	385,924	0	注1
合計	385,924	385,924	0	

注1:該当する支出がなかったため。

2022年度 一般会計 予算(案) (単位:円) (2021.12.31 現在)

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
会費					
通常 (一般)	7,000	741	5,187,000	14,000	注 1
通常 (学生/海外)	3,000	100	300,000	△ 72,000	注 1
団体会員	8,000	21	168,000	0	
自動振替手数料	132	143	18,876	0	
APG カラーチャージ	18,000	32	576,000	252,000	注 2
バックナンバー販売			81,500	△ 38,500	注 3
著作権使用料			100,000	0	
利息			50	0	
雑収入			0	0	
合計			6,431,426	155,500	

支出の部

大会補助費			100,000	0	
講演会補助費			70,000	0	
出版物印刷費					
APG vol.73 (1,2,3)	930,000	3	2,790,000	0	
植物地理・分類研究 vol.70 (1,2)	700,000	2	1,400,000	0	
ニュースレター No.84-87	55,000	4	220,000	0	
学会誌編集補助費			280,000	30,000	注 4
英文校閲費			50,000	0	
出版物送料					
APG 送料	110,000	3	330,000	0	
和文誌送料	110,000	2	220,000	0	
NL 送料	90,000	2	180,000	0	注 5
会議費			0	0	
学会賞表彰経費			47,000	0	
自然史学会連合負担金			0	△ 20,000	注 6
分類学会連合負担金			10,000	0	
事務局管理費					
消耗品費			20,000	0	
交通費			50,000	0	
封筒等印刷費			0	0	
通信費 (小包手数料を含む)			50,000	0	
手数料・その他			15,000	0	
集金代行基本料金/資金振込手数料			4,070	0	
集金代行振替手数料	132	143	18,876	0	
レンタルサーバー使用料			26,400	0	
国際シンポジウム積立金			200,000	0	注 7
予備費			100,000	0	
合計			6,181,346	10,000	

単年度収支		250,080	145,500
前年度からの繰越金		6,044,853	△ 250,458
次年度への繰越金		6,294,933	△ 104,958

注 1:会員数見直しによる。

注 2:前年の実績に基づき更新。

注 3:前年の実績に基づき更新。

注 4:前年の実績に基づき更新。

注 5:学会誌との同時発送を年 2 回行う。

注 6:2022 年度負担金を徴収しないことになったため。

注 7:2023 年の開催および若手派遣に備えての積立金。特別会計へ移換。

2022年度 特別会計 [絶滅危惧種調査] 予算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部		予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金		45,976	△ 2,000,000	注 1
レッドリスト改訂のための原稿費 (2022 年分)		1,800,000	△ 1,800,000	注 2
合計		1,845,976	△ 3,800,000	
支出の部		予算	前年度予算との差異	
レッドリスト改訂のための事務委託費・原稿編集費 (2022 年分)		1,845,976	△ 154,024	注 3
次年度への繰越金 (2023 年分)		0	△ 1,600,000	注 4
合計		1,845,976	△ 1,754,024	

注 1:2021 年度 (環境省の会計年度; 2021 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日) 委託費による繰越金。

注 2:2022 年度 (環境省の会計年度; 2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 31 日) 委託費。

注 3:環境省の会計年度内 (2022 年 4 月 1 日から) に支出予定。

注 4:環境省の会計年度内 (2023 年 3 月 31 日まで) に支出予定。

2022年度 特別会計 [国際シンポジウム] 予算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部		予算	前年度予算との差異			
前年度繰越金		800,000	200,000			
国際シンポジウム積立金		200,000	0	注 1		
合計		1,000,000	200,000			
支出の部		単価	数	予算	前年度予算との差異	
国際シンポジウム準備金				0	0	注 2
国際シンポジウム若手派遣				0	△ 100,000	注 3
2021 年度プログラムの郵送料	370	60		22,200	22,200	注 4
2021 年度ポスター賞記念品の郵送料	1,500	2		3,000	3,000	注 4
次年度への繰越金				974,800	274,800	
合計				1,000,000	200,000	

注 1:2023 年の日本での開催および今後の若手派遣に備えての積立金。一般会計より移換。

注 2:シンポジウムの開催がないため。

注 3:シンポジウムの開催がないため。

注 4:韓国のシンポジウム事務局より国際シンポジウム委員会に国内該当者への郵送依頼があったため。

2022年度 特別会計 [命名規約] 予算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部		予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金		617,609	0	
合計		617,609	0	
支出の部		予算	前年度予算との差異	
次年度への繰越金		617,609	0	注 1
合計		617,609	0	

注 1:該当する支出がないため。

2022年度 特別会計 [顕彰事業] 予算(案) (単位:円) (2021.12.31現在)

収入の部		予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金		385,924	0	
合計		385,924	0	
支出の部		予算	前年度予算との差異	
次年度への繰越金		385,924	0	注 1
合計		385,924	0	

注 1:該当する支出がないため。

日本植物分類学会第 21 回神奈川大会実行委員会からのお知らせ

第 21 回大会大会会長 勝山 輝男 大会実行委員長 山本 薫

(1) 開催形態の変更について

神奈川大会は**全面オンライン開催**として以下の通り実施することを決定いたしました。皆様を混乱させることになり申し訳ございませんが、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

既に振り込まれた懇親会と昼食費用の返金については大会後に連絡いたします。

○一般口頭発表：Zoom ミーティングによるオンライン口頭発表に変更

発表者の方はインターネットに接続できる PC をご用意ください。Zoom の使用方法については、ホームページで公開いたします。プログラム上の発表時間は、講演 12 分、質疑応答 3 分の計 15 分です。

○ポスター発表：LINC biz によるオンラインポスター発表

LINC biz (<https://getlincbiz.jp/>) というサービスの使用を予定しています。LINC biz を用いれば大会開始前からポスターのアップロード・閲覧ができるようになります。大会期間中はいつでもチャットで質問をすることができますし、演者が小規模なビデオルームを開くことで対面のポスター発表のような雰囲気での交流を行うこともできます。多くの学会で使用実績のある発表方法ですので、ぜひご活用ください。

○総会，受賞講演，公開シンポジウム：Zoom ウェビナーによるオンラインでの発表・配信

○大会参加の各締切の変更

区分	項目	締切
発表する人	発表・参加申込	1月28日（締切りました）
	要旨締切	2月4日（締切りました）
参加する人 (演者でない共同発表者を含む)	大会参加費 一般 4,500 円	参加申込みより前 ※発表しない学生は無料
	参加申込	2月28日 (ただし、2月5日以降の申込は要旨集にお名前が記載されません)
公開シンポジウムのみ視聴する人	参加申込（先着 500 人）	3月5日正午 (大会ホームページ上の参加申込フォームから別途お申込みください)

○参加費について

本大会がオンライン開催となったことに伴い、**発表のない学生（学部生，大学院生）の大会参加費を無料**にいたします。これは、学生の方の自己負担を軽減することで、若い世代の学会参加・大会参加の促進を図ることを目的としております。一般参加の皆様におきましても、ご理解をお願いいたします。

○学生のみなさまへ

本大会には日本植物分類学会会員・非会員を問わずにご参加いただけますが、参加申込みの手続きは必ず行ってください。また、確認のために、非会員の学生の方におかれましては、申込み後にご本人から実行委員会のメール (jsps2022@gmail.com) 宛に学生証の画像 (名前と大学名が確認できるもの) をお送りいただくか、一般会員となっている方から実行委員会宛の推薦メールをお願いいたします。

既に参加費を入金された、発表のない学生のみなさまへは、後日（大会後）に参加費を返金いたします。

(2) 日本植物分類学会第 21 回大会公開シンポジウムのご案内

「地中のきのこ×菌根」

2022 年 3 月 3～6 日にオンラインで開催される第 21 回大会の最終日 6 日に、以下のとおり公開シンポジウムを開催いたしますので、奮ってご参加ください。非会員の方も無料でご参加いただけますので、関係の方々にもぜひご周知をよろしくお願いいたします。

【開催趣旨】

トリュフ類など、地中にきのこをつくる菌類は「地下生菌」と呼ばれ、きのこ類の中でもマイナーな存在です。しかし、近年著しく研究が進展し、国内でも予想以上に多様な地下生菌が存在することが判明しつつあります。これらの菌の多くは植物と菌根を形成し、共生関係にあることが知られています。それゆえ、植物との密接な関係を明らかにすることが、地下生菌の多様性や生態を深く理解する鍵であると言えます。本シンポジウムでは、国内外で活躍されている菌類研究者をお招きし、「地下生菌」と「菌根」をキーワードに、菌類と植物との深い関係性に迫ってゆきたいと考えています。

【日時】2022 年 3 月 6 日（日）14:00～16:45

【開催形態】Zoom ウェビナーを利用したオンライン開催（定員 500 名）

【参加費】無料

【申込方法】

大会ホームページ上にあります参加申込フォームよりお申し込みください。お申込みいただいた方には、申込内容確認のための自動返信メールが送られます（申込時の自動返信メールが届かない場合は、お手数ですが、下記の参加申込に関するお問い合わせ先までご連絡ください）。

※公開シンポジウムは事前申し込み制となっております。第 21 回大会に参加を申し込まれた方も別途申し込みが必要となりますのでご注意ください。

【申込締切日】2022 年 3 月 5 日（土）正午

※ 締切後、電子メールの一斉送信で、シンポジウムへの参加用 Zoom ミーティング ID とパスワードをお知らせいたします。

【プログラム】

- 14:00～14:05 開会挨拶・趣旨説明
- 14:05～14:20 折原 貴道（神奈川県立生命の星・地球博物館）
「地下生菌の系統と多様性、国内での研究動向」
- 14:20～15:00 山本 航平（栃木県立博物館）
「アツギケカビ目菌類の多彩な共生関係～苔類基部系統から樹木まで～」
- 15:10～15:50 大和 政秀（千葉大学教育学部）
「森林生態系におけるアーバスキュラー菌根共生」
- 15:50～16:30 木下 晃彦（森林総合研究所）
「日本のトリュフの多様性」
- 16:30～16:45 総合討論・質疑応答
- 16:45 閉会

【参加申込に関するお問い合わせ先】

日本植物分類学会第 21 回大会（神奈川）実行委員会
電子メール：jsps2022@gmail.com

【内容に関するお問い合わせ先】

日本植物分類学会第 21 回大会（神奈川）実行委員会
公開シンポジウム担当 折原貴道（神奈川県立生命の星・地球博物館）
電話：0465-21-1515（代表）

電子メール：t_orihara@nh.kanagawa-museum.jp

※お問い合わせの場合には、できるだけ電子メールをお使いください。メールのタイトルは、「公開シンポジウム問い合わせ」として下さい。

名誉会員候補の情報募集

庶務幹事 西野 貴子

名誉会員については、会則第 5 条「本会（旧日本植物分類学会ならびに旧植物分類地理学会を含む）に 50 年以上在籍した通常会員、または植物分類学の発展に著しい功績のあった個人で、評議員会の議を経て会長が推薦するもの」と定められています。しかし、2019 年の推薦をもって会員の在籍期間を確認するための資料が途切れたため、2020 度の総会にて自薦、他薦は問わず、今後しばらくは情報を広く募集することに決まりました。

そこで推薦に向けて、会員の皆さまからの情報を随時お待ちしております。不確かでも結構ですので、お心当たりがありましたら、庶務幹事までメール、ファックス、郵送にてぜひご連絡ください。

ただし、評議員会を経た後、総会での会長推薦をもって名誉会員が決定されるため、ご連絡のタイミングによっては決定までに時間を要することもあります。どうぞご了承ください。

庶務幹事連絡先：西野 貴子 jimuj@e-jsps.com

〒 599-8531 堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学大学院理学系研究科 Fax: 072-254-9754

